

よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草 (24)

5月27日、現任最後の理事会が開催されました。もちろん大きな議題は平成28年度決算と事業報告の承認です。決算では法人の総経常活動収入は62億2千5百万円、総支出56億円でした。各事業本部別収入では、児童事業本部11億円、保育事業本部23億円、高齢事業本部28億円となっています。法人全体の積立金は25億6千万円、一方借入金は高齢事業本部の27億円が最大で、総額30億円となっています。結論的には法人全体を見れば健全な決算だったといえます。事業としては総事業費約30億円にもなったアウリンコの建設が大きな事業でした。また昨年度は法改正に関わるマネジメントの取り組みとして、社会保険の法人一本化、給与規定の統一化がなされました。これで法人内、少なくとも事業本部内のキャリアパスの条件が整備されました。また6月17日の定時評議員会の開催と議案が決定され、新理事の候補者の名簿が承認されました。そこで理事会推薦の新理事が承認予定です。引き続いて開催予定の新理事会で次期理事長、業務理事（常務理事）の決定がなされます。引き続き、恒例の法人15年職員顕彰や新旧役員、関係者の懇親会が開催されます。何かと忙しい年度末と年度初めでしたがこれで新しい体制の準備が完了です。

さて、理事会を終えて一段落した時を捉えて、私は前から心に思っていたビルマに続くサイパン島に、先の大戦の慰霊の旅を1人でしてきました。2泊3日の駆け足でしたが、心に残る寂しい旅となりました。激戦であったサイパン攻防戦では兵士3万が戦死しました。1944年7月の事です。しかし米軍にも約3,500人の戦死者を出したそうです。

今はすっかりリゾートになっているサイパン島ですが朝鮮の方も含めて一般市民約1万人が死亡、その中には夫々約2,000人、高度差200M以上あるシュイサイドクリフや万歳クリフに飛び込んだといわれます。子供をおんぶして後ろ向きに崖から飛び込む母親もいたという話です。国策で南洋の島で働いていた人々です。

寂しかったのはお線香をあげた数多くの慰霊碑に近年訪れる日本人が殆どいなくなってしまうという事。そして島を訪れるのは殆ど韓国、中国からの観光客になっていた事です。本土無差別爆撃のB29はここから飛び立ちました。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

季節は初夏、改正福祉法を受けいよいよ新体制が始まり、より経営が問われてきています。

今回は“高橋田鶴子先生の生誕100年の会”の記念の文集に寄せたものを紹介します。

幾多の歴史を重ね、春の訪れの度に今年の根川桜堤も満開に咲き、一気に吹雪きました。学園前は大勢の人が往来し、花見に興じ名実共に立川の名勝になってきています。季節は光り輝く若葉、新緑から青葉へ移ります。学園のお母さんとして慕われていた高橋田鶴子先生は、4月29日が誕生日とのことで「田鶴子先生 生誕100年の会」が「子どもの日ガーデンパーティー」と併せてこの自然に恵まれた環境のもと、地域のお子様やボランティア、関係する皆様と共に行われ、喜んでる姿が思い浮かびます。至誠学舎の歴史の中で、戦後間もなく創設者稲永久一郎亡き後、少年保護事業終了後の法人再生の時期には、至誠保育園をはじめ至誠学園・第二保育園の開設、運営等々、当時の新たな福祉関係法による事業の展開に尽力されました。当時を偲び振り返れば、誰に対してもおもてなしの心や、人の喜びを我が喜びとして、人の悲しみも共に悲しみ、心配し受け止めてくれるような温かなお人柄でした。皆様から大切にされ“お母さん”として慕われていました。

写真は創設者稲永久一郎の娘、四姉妹です。法人80周年記念式典会場、中野サンプラザでのそれぞれ何人か人間力を感じる魅力あるスナップであり、部屋にいつも飾っています。社会福祉法が改正され、時代が大きく変わろうとして100年の意味は大きい。世紀の重みは創設者の娘である姉妹が遅しくも時代として心の標となっているのです。先人達の意志を大切に今後も更なる地域福



<ヨネ先生 田鶴子先生 日出子先生 富美子先生>

いる今、法人105年の歴史の中で生誕共に生き、至誠の精神と変わらない原点社の充実のため努めてまいります。

保育事業本部長 稲永勝行

事業本部情報

♪児童事業本部♪

毎日暑い日が続きます。桜の季節から急激に熱くなり体調を整えるのが大変です。先日あまりにも暖かい日だったので、知人とその家族でザリガニ採りに出かけました。子どもの頃の遊びで覚えた多摩川や根川岸をガサガサしながら魚やドジョウ、ザリガニを大量に採り遊んだ経験を生かして、今回も望みました。もちろん大量に収穫があり子ども達は大喜びし、楽しく遊ぶことが出来ました。一緒に同行した知人やご家族は驚いておりました。経験したことが自信となり役立つことが出来うれしく思いました。さて、この季節児童事業本部においては、特に子ども達の食生活には気を付けて生活しております。栄養士の指導から次の内容にも十分気をつけていきたいものです。食中毒予防は、食品を購入してから、調理して、食べるまでの過程で、どのように、細菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」を実践していくかにあります。「買い物」「ホームでの保存」「下準備」「調理」「食事」「残った食品」の6つのポイントが重要です。日頃から予防に備えることが大切です。このことは毎年同じようにお話しております。子ども達が自立していく時にも重要なことと考えております。

7月1日(土)「チャリティーマーケット」恒例になりましたバザーを開催いたします。

収益金の一部に児童養護施設を卒園して自立する子ども達の支援のための費用とすることを目的として行います。地域の大勢の皆様のご協力のもとお品物のご提供や当日のボランティアの方々のご支援をいただきながら実施しております。どうぞ、皆様もご家族そろってご来園いただければ幸いです。お待ち申し上げております。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(櫻井 壽)

♪保育事業本部♪

平成28年度の決算が終わり一息と思っておりましたが施設調査書、報告書など提出の多い6月です。担当の先生方は一息つくのにもう少し時間がいかりそうです。

各保育園は6月を迎え新入園児も落ち着き安定した生活を送ることができています。幼児グループのお子さまは「この虫なあに?」「この花なんていう?」「先生見てみて!」「ダンゴ虫に触れた」と好奇心をくすぐる季節になり、笑顔いっぱいのお子たちです。

さて、4月より入職した新人職員も3か月が過ぎようとしています。環境になれること、毎日の仕事をこなすだけで精一杯の方、まだまだ緊張の強い方様々だと思います。ここで3か月の振り返り、チューター制の面談やフィードバック研修をしながら次へのステップを目指します。少しゆとりが出てきて、自身がつき、実力をつけながら個が確立していくイメージです。どうぞご自身が成長していくイメージを持ちながら自己実現を目指して欲しいと願っています。紫陽花の蕾も咲きはじめ、もうすぐ梅雨入りです。うっとうしい毎日が続きますがお体ご自愛ください。(長谷川育代)

♪高齢事業本部至誠ホーム♪

6月3日(土)至誠ホーム第66回開設記念「感謝のつどい」を開催しました。今回は至誠特別養護老人ホーム・至誠デイケアセンターの40周年となります。朝からとてもいいお天気に恵まれ、大テントの下で爽やかな風につつまれ楽しい会を過ごすことができました。例年は行政の方や外部の客様もお招きして行うのですが、今般は内輪の人達とだけの開催となりました。日頃からお世話になっている援助協力者、ボランティアの方、後援会の皆さん、そして永年勤続表彰の職員の人達をお呼びしました。後援会会員の表彰者は53名です。(5年、10年、15年、20年、25年、30年、35年、40年、50年)ボランティアは76名です。(3年、5年、10年、15年、20年、30年)永年勤続表彰は86名です。(5年、10年、15年、20年、25年、30年、35年、40年)表彰の後は橋本富美子相談役の乾杯のご発声でガーデンパーティが始まり、皆さんの笑顔が一杯でした。(金井 裕一)

本部事務局だより

毎年の各職場・施設あるいは各事業本部、そして至誠学舎立川の活動は、お金の面からは決算という形で公表されることとなります。先月に平成28年度の決算がまとまりました。関係者の皆様ご苦労様でした。その決算は今年からは評議員会(6月17日開催予定)で正式に承認されることになっています。決算書は数字の羅列で一見冷たく、無味乾燥しているようにも見えますが、よく見ると熱い仕事の成果が表わされているのです。面白く決算書を見るコツは、「何故だろう?」と想像力を働かせることです。そして隣の決算書と比べてみると、さらに「何故?」が増えて「どうして?」「どうしたら?」となれば決算書は面白くなるでしょう!

(野島 忠幸)

<編集後>今年の5月は、これから梅雨が来るとは思えない例年にない暑さで、人間はもう夏バテ?気味です。が事務所から望む草木は、とてもイキイキとして風に揺れる緑が本当に美しく癒されます。